

高松市生涯学習推進状況報告書

1 生涯学習を取り巻く環境

人生 100 年時代が到来し、市民一人一人が、生涯にわたり心豊かに生きがいのある人生を送るためには、多様な学習ニーズに対応できる環境づくりが求められています。

しかしながら、家庭においては、少子化、核家族化等による教育力の低下、地域においては、人間関係の希薄化、コミュニケーションの減少等による教育力の低下が課題となっており、これらの課題解決を図るためには、社会全体で子どもを育てていくことが重要であると考えられます。

また、昨今の学校や家庭を取り巻く情勢の変化に伴い、社会的に孤立しがちな若者が増加しており、高齢者、障がい者なども含めた様々な理由で困難を抱える人々への学びの機会も求められています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに、ICTなどを活用した講座も増加するなど、学習方法も多様化しており、新たな学びへの転換も必要となっています。

生涯学習を取り巻く環境は多様化・複雑化しており、本市では、令和 4 年 3 月に策定した「生涯学習の今後の推進方針」の中に以下の 4 つの重点項目を盛り込み、効果的な生涯学習施策の推進に取り組んでいるところです。

☆「生涯学習の今後の推進方針」に定める 4 つの重点項目

-  **学びを通じた人づくり、地域づくりの推進**
-  **社会全体で子どもを育てていくための家庭・地域の教育力の向上**
-  **様々な理由で困難を抱える人への学びの機会の提供**
-  **ポストコロナを視野に入れた新たな学びの形への転換**

令和 4 年度は、第 2 期高松市教育振興基本計画の施策体系に基づき、本市で実施している生涯学習事業のうち、4 つの重点項目を推進するための 100 事業について、自己評価を行いました。

2 本市における生涯学習事業の評価結果 (教育振興基本計画の施策体系ごとに評価を実施)

基本目標	施策の基本方向	具体的な施策の展開	事業数	評価別 事業数				
				A	B	C	D	評価不可
IV 青少年の健全育成	1 子どもの体験活動の充実	(1) 放課後や週末の体験・交流活動の場づくり	17	8	2	5	0	2
	2 青少年の健全育成の推進	(1) 子どもが安心できる場所づくり	1	1	0	0	0	0
		(3) 情報モラル教育とネット・ゲーム依存対策の推進	1	0	0	0	0	1
V 家庭・地域の教育力の向上	1 学校・家庭・地域の連携強化	(1) 家庭・地域と一体となった学校の活性化	7	6	1	0	0	0
	2 家庭及び地域の教育力向上の推進	(1) 家庭の教育力の向上	11	8	2	1	0	0
		(2) 地域の教育力の向上	2	2	0	0	0	0
VI 生涯学習の推進	1 学習機会の充実	(1) 多様なニーズに応じた学習機会の充実	44	30	9	0	0	5
		(2) 学習成果をいかせる環境づくり	8	6	1	0	0	1
	2 学習施設・機能の充実	(1) 学習施設・機能の充実	9	3	6	0	0	0
総合計			100	64	21	6	0	9
令和4年度 評価ごとの割合 (%)				64.0%	21.0%	6.0%	0%	9.0%
(参考) 令和3年度 評価ごとの割合 (%)				61.1%	16.5%	7.8%	6.8%	7.8%

- ★評価：A（前年度の実績を上回った。前年度実績の100%以上）
 B（概ね前年度の実績並である。前年度実績の80%以上100%未満）
 C（前年度の実績を下回った。前年度実績の80%未満）
 D（未着手、実施不可能、事業中止）
 評価不可（令和4年度新規事業、新型コロナウイルス感染症対策として、
 オンライン配信等に変更したことにより数値化できない場合を含む）

3 主な事業について

(1) 前年度評価を上回った主な事業とその要因（基本目標別）

◎基本目標「Ⅳ 青少年の健全育成」

No.13「年長児童の赤ちゃん・出会い・ふれあい事業」では、前年度同様オンライン形式等の非接触型での開催を中心としつつ、一部の学校では直接的なふれあい体験を再開したことなどにより、ライフデザインを考えるきっかけとなった生徒の割合は前年度実績を上回り、A評価となりました。

◎基本目標「Ⅴ 家庭・地域の教育力の向上について」

No.36「いじめや不登校に関する相談電話事業」では、令和4年度からいじめ案件に加えて不登校案件についての相談も受付を開始したことで、より多くの相談に対応できるようになりました。

◎基本目標「Ⅵ 生涯学習の推進」

No.70「まなびCANホームページ情報発信事業」では、自主学習スペースの開放情報を毎週掲載するなど、積極的な情報発信に努めたことにより、ホームページアクセス件数は前年度実績を大幅に上回り、A評価となりました。

(2) 前年度評価を下回った主な事業とその要因

No.3「夏休み市場DE自由研究事業」やNo.4「親子文化財教室」、No.6「夏休み子ども歴史講座」など、夏休み期間に小学生を対象に実施を予定していた事業では、新型コロナウイルス感染症の影響等により、参加者数が前年度実績を下回り、C評価となりました。

(3) 4つの重点項目を推進するための取組

ア 学びを通じた人づくり、地域づくりの推進

No.44「地域コミュニティ協議会情報発信事業」について、令和5年度から、独自のHPやSNSを使って情報発信を行う地域コミュニティ協議会が増加していることなども踏まえ、市のホームページから各協議会のHPにリンクする仕様に変更しました。

イ 社会全体で子どもを育てていくための家庭・地域の教育力の向上

No.16「美術館学習」について、高松丸亀町商店街振興組合との連携事業として商店街内に設置されたランチ・ギャラリーを活用し、中学・高校の美術部の作品を展示するなど、学校と連携した活動を実施しています。

ウ**様々な理由で困難を抱える人への学びの機会の提供**

No. 8 3 「高松市夜間教室事業」については、令和 4 年度から、十分な教育が受けられないまま中学校を卒業した人などを対象に生涯学習の一環として、学び直しを支援する目的で実施しています。

エ**ポストコロナを視野に入れた新たな学びの形への転換**

No. 4 7 「人権・同和問題指導者養成事業」については、令和 4 年度はオンラインのみの開催としておりましたが、5 年度からは、対面での講座の再開、オンラインや中継での実施など、多様な形式で実施を予定しています。

4 評価結果についての分析及び今後の方向性

(1) 評価結果についての分析

令和 4 年度の本市における生涯学習事業を評価した結果、A・B 評価が全体の 8 割を超えており、このことは、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限等が緩和され、多くの事業が参加定員を増やすなど、コロナ前の実施状況に戻りつつあることが主な要因と考えられます。

また、ポストコロナも視野に入れながら、実施方法や内容などを創意工夫した結果、高い評価につながった事業もありました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止・縮小した事業も一定程度ありました。

(2) 今後の方向性

今後は、令和 3 年度に策定した「生涯学習の今後の推進方針」に基づき、多様化・複雑化する地域課題にチャレンジできるよう、新たな視点から生涯学習を推進する必要があります。

また、令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類感染症に引き下げられたことに伴い、多くの事業が活発に実施されることが想定されます。

コロナ禍をきっかけに生まれた新たな事業の実施形態や手法なども生かし、効果的に事業を実施することも求められています。